

「能」を体験！

国際文化情報学科３年生は、「日本の文化」の授業で、１１月９日、１１月１６日の２回にわたって「能」について学びました。講師は、観世流能楽師の上田拓司様でした。

前回の「能」についての講義に続いて、今回は「能」の「実技指導」をしていただきました。

まずは、挨拶から始まりました。慣れない正座の姿勢から正しいお辞儀の仕方を習いました。



続いて、発声の練習をしました。今日は、「齢（よわい）を授くる」という一節でした。

次に、前回にも習った「気」について、もう一度復習しました。

へソの下にある丹田に気を送って空気をため、体の芯を通して空気を吐きます。

難しいですが、繰り返すうちに徐々に慣れてきました。

繰り返し繰り返し・・・これが、「気を静める」ということだと理解することができました。

さらに、聞こえないものを聞き、見えないものを見ることが、日本の文化に繋がると教えていただきました。



そして、実技に挑戦しました。

お手本の後、実際にやってみました。



難しかったけれど、楽しかったです。最後に、お辞儀をして終わりました。



<生徒の感想>

- ・今回の講座では、能だけでなく、日本の文化に関する知識を深めることができました。
- ・講師の上田先生のお手本を見ただけで鳥肌が立ちました。舞台で見ると、もっと迫力があるのだと思います。
- ・今まで能について何も知りませんでした。初めて生で見た能は、すごく迫力があって本物だと思いました。
- ・2回の能講座で、普段体験できないようなことができてとても貴重な経験になりました。最初は少し緊張もありましたが、やってみるとすごく難しく、奥が深いなあと感じました。
- ・講師の上田先生の実際の発声や動きは、すごく迫力があって圧巻でした。
- ・今回の講座を通して、能をはじめもっと日本の文化について知りたいと思いました。
- ・実践のとき、正座が思ったよりしんどくて、途中で足をくずしてしまったけど、お辞儀のお話や、挨拶のお話は、これから生きていくうえでとても大切なことだと思いました。
- ・機会があれば、本物の能を見に行きたいと思いました。